

勢和小学校だより



明日も行きたくなる勢和小 ～楽しく笑って過ごせるように、やって、考え、工夫しよう～

発行日：令和7年5月16日 第7号

本校の求める「楽しさ」とは

～自身の成長を子どもたちが感じていること～

学校教育目標「明日も行きたくなる勢和小」の実現には、楽しい学校生活が大前提になってきます。楽しい学校生活とは、「いい思い出になった。」「楽しい時間を過ごせた。」という漠然とした楽しさではなく、目指すゴールや目標に達成できたこと、それに至る活動を仲間と協働して工夫できたこと等、子ども達が自分の成長や存在感を味わうことを「楽しさ」と本校では捉えています。

「授業が分かる」、「初めてのことや苦手なことが、できるようになった。」、「自分のアイデアや行動で学校が安全・快適になった。」、「仲間と一緒に取り組めた。」など、子ども達が自身の成長を感じられるようになったり、他者から認められていることを認識できたりして、自分に自信が持てるようになっていくこと、クラスの高まりなどを子ども達が実感できていることを「楽しさ」と捉えています。

学校教育目標「明日も行きたくなる勢和小 ～楽しく笑って過ごせるように、やって、考え、工夫しよう～」の「楽しさ」を実感できるよう、教育活動を進めていきます。

「楽しさ」の具体例として、昨年度から依頼しているサンパークでの水泳指導では、水泳回数は3日間となり、学校で指導していた頃に比べて実施回数は減りました。このことで子ども達の「楽しさ」が減ったと思われた方も見えかもしれませんが、担任一人で指導していた頃に比べ、泳力を伸ばすことができました。	水泳指導後のアンケートでは「水泳が楽しい」、「水泳が上手になった」とほとんどの子ども達が回答しており、水を怖がっていた子ども達も、水泳を苦手としていた子ども達も「できるようになった。」と本来の「水泳の楽しさ」、「泳げることの楽しさ」を感じていたと思います。
---	--

※水泳アンケート結果は、本校ホームページ「学校だより」2024年度学校だより第18号に掲載しています。

4月のけが発生件数78件 6年生は0件

4月のけが発生件数は78件でした。擦り傷、打撲がけがのほとんどを占めています。

その中で6年生のけが発生件数は0件でした。6年生は昨年度の1年間もけが発生件数が学校最少でした。

その要因として考えられることは、校舎内の廊下や階段を走っている人がほとんどいないこと、遊びやスポーツのルールを守っていることなどです。危険な場所を避けて行動していることも要因でしょう。

本校では、理科の実験や体育の授業、校外学習などにおいて、危険回避のための子ども達の意識向上を図るため、予想される危機について考えさせています。

ケガや事故は意識を変えることで回避することができます。危険な行動とはどういうものかを考えさせ、ケガや事故の未然防止に努めるとともに、環境が起因として事故・ケガにつながらないように、子どもの視点を加えた安全点検を実施し、危険な状況を取り除いていきます。



みんなで時間いっぱい掃除



本校では以前から「さしすせ掃除」に力を入れています。「さっと集まり、静かに掃除、すみずみまで、時間いっぱい」が合い言葉です。

特に重要視しているところは、みんなで取り組むところです。これまでだと「自分はホウキだから、雑巾はしない」などと分業意識が強く、その結果、自分の仕事が終わると、まだ他の人が掃除しているにも関わらず何もしないということがあったため、「みんなで掃く」、「時間が余ったらみんなで拭き掃除」を意識させています。



今回掲載した写真は、「みんなで拭く」、「時間が余ったら拭き掃除」の場面を写したものです。6年生が下級生に言葉をかけ、なかよし班をまとめ、さしすせ掃除

を実行しています。

来年度は屋外で1年生を歓迎する行事に

4月22日に実施した1年生を迎える会について職員会で検討しました。全学年が1年生を楽しませるというめあてを明確にし、取り組めたことには教育的効果があると判断した一方で、主催する側だけが楽しんでしまっていたという反省もありました。カリキュラム・オーバーロードの視点では、レクリエーションの企画にある程度の時間がかかったため、授業時数の縮減にはつながらなかったことも分かりました。

子どもたちからは従来の遠足を望む声がある一方で、これまでのような遠足だと仲のいい人と遊ぶだけになるので、1年生を楽しませる等、今回のようなめあてがあるといいとする意見もありました。

以上のことから、来年度の遠足、または1年生歓迎行事は次のように実施することにしました。

- ・異学年の交流を活発にするためになかよし班で活動する。
- ・日常生活から離れ、のびのびと体を動かせるために屋外活動にする。
- ・1年生を歓迎するなど、行事のめあてを明確にする。

詳細については年度内に検討し、決定していきます。

